

# 令和4年度 指定管理者モニタリング年度評価シート

[山形市特別養護老人ホーム菅沢荘]

施設概要			
施設名(所在地)	山形市特別養護老人ホーム菅沢荘 (山形市すげさわの丘46番地)		
施設目的	菅沢荘は、心身の障害のために常時介護を必要とし、かつ、居宅において介護を受けることが困難な高齢者を入所させ、施設サービス計画に基づいて、入浴、排泄、食事等の介護その他日常生活上の世話、機能訓練、健康管理等の支援を行い、高齢者の福祉の向上を図ることを目的とする施設である。		
指定管理者(選定方法)	社会福祉法人 山形市社会福祉事業団(選定方法:非公募)		
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
指定管理者が行う業務	1 介護保険法に規定する短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護、又は介護福祉施設サービスに関する業務 2 老人福祉法に規定する入所措置に関する業務 3 入所者の健康管理、安全確保に関する業務 4 関係機関との連携に関する業務 5 地域との交流事業に関する業務 6 施設及び設備の維持管理に関する業務 等		
利用料金制導入の有無	有		
施設所管課	福祉推進部長寿支援課		
評価区分	評価項目	評価ポイント	評価
管理運営の状況	人員配置	人員配置は過不足なく適切に行われたか	A
	有資格者の配置	必要な有資格者の配置は適切に行われたか	A
	資質向上	職員の資質向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	受付・接客	接遇向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	平等利用	特定の利用者を有利または不利に扱うことなく、取り扱いが適切に行われたか	A
	利用者サービス向上	利用者サービス向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	広報	利用者への広報は情報提供として適切に行われたか	A
	備品・建物等の管理	備品・建物等の財産の管理は適切に行われたか	A
	安全対策	利用者の安全確保の取り組みは適切に行われたか	A
	危機管理	緊急時に備えての研修・訓練等は適切に行われたか	A
	事故・苦情の対応	事故・苦情に対する対応は適切に行われたか	A
	利用の状況	開館日数	開館(日数)は適切に行われたか
開館時間		開館(時間)は適切に行われたか	A
事業実施の状況	実施回数	実施回数は目標を達成したか	B
	参加者数	参加者数は目標を達成したか	B
	事業内容	事業の内容は施設の設置目的にあう適切なものであったか	A
満足度の調査	利用者満足度の把握	アンケート等を実施して利用者満足度の把握は適切に行われたか	A
	利用者満足度向上	アンケート結果等により利用者満足度向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
維持管理の状況	清掃(日常)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	清掃(定期)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保守点検(日常)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保守点検(定期)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保安警備	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	修繕等維持管理	修繕等は適切に行われたか	A
収支の状況	利用料金の收受	利用料金の收受は規定の料金を適正に收受するなど適切に行われたか	A
	利用料金の減免	減免の申請手続がなされた場合、処理は適切に行われたか	A
	経費の縮減	経費縮減についての取り組みは適切に行われたか	A
	収入の増加	収入増加についての取り組みは適切に行われたか	A

## 成果のあった主な取り組み

- 定期的に全体会やミーティングを通して感染症(特に新型コロナウイルス)についての研修会や予防の徹底の周知を行った。
- 新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、ゾーニングのシミュレーションとゾーニング用の防護カーテンを事前に準備していたことで感染を収束することができた。
- 介護、看護職員が連携を密にして、健康管理に努めたことにより入院者を減らすことができた。
- 新型コロナウイルスの感染予防の徹底を図り三密を避けるように細心の注意を払いながら各行事を企画し実施した。
- 夏祭り、敬老会、芋煮会等例年ご家族が一緒に参加する行事については参加は無しとしたが、その様子等はホームページや家族会の便り等でお知らせした。
- 買い物支援事業については新型コロナウイルスの感染予防を第一に地区の民生委員と連携しながら実施した。
- ノロウイルスや新型コロナウイルス等の感染拡大を防止するために、消毒や換気を徹底して実施し、感染者が発生した場合でも、迅速に対応し最小限に食い止めるように努力し、安全な生活環境の整備を図ることができた。
- 安心して利用できる環境を整備するため、建物や機器設備の適切な管理に努めた。
- 職員間でも財務状況を把握し、稼働率のアップ及びコスト意識の向上に努めた。
- ショートステイでは、困難ケースの緊急入所者の受け入れを行った。
- 空き情報を居宅介護支援事業所や病院の連携室にも提供し新規利用者の確保に努め、収入の増加を図った。

## 主な課題や今後の対応

- 骨折の事故防止にあたっては、特に認知症の方については行動の予測がつかない場合が多く、毎日の状態観察により予測を立てながら見守りを行うように予防に努める。
- 介護人材不足による負担軽減のため移乗の際のリフトの導入、及び自動体交ベッド等の購入を促進する。
- 生活施設であることを念頭におき、引き続き感染対策を徹底し、継続的、安定的な施設運営管理に努めていく。
- 人員の確保に努め、事業が安定的に継続していけるように取り組んでいく。
- Withコロナを見据えた事業やサービスのあり方を検討し、質の高いサービス提供に努めていく。
- 継続してアンケート調査を実施し、満足度の把握・分析に努めていく。
- 収入の増加を図ることが厳しい状況だが、建物各所や機器設備の修繕や更新を山形市と協議しながら検討していく。
- 新型コロナウイルス等の感染症対策を万全に実施し、入所者や利用者が安心して暮らせる生活環境の確保を図る。
- 職員が経営の状況を把握し、経費の節減に努め、利用稼働率のアップによる収入の増加を図る。

## 評価コメント

(管理運営の状況について)万が一に備えたシミュレーションを含む定期的な研修等の実施により、感染症の拡大防止に努めている。今後も継続した取り組みを実施してほしい。安全対策については、本沢地区および近隣施設と締結した「災害時相互応援協定」に基づき、以前より様々な状況を想定しての避難訓練などを実施しており、危機管理意識が高く防災体制を確立している。

(事業実施の状況について)夏祭りや敬老会、芋煮会など、コロナ禍により家族は呼んでいないが、広報紙やホームページで情報を配信するなど、入所者からの評価も高い。

(維持管理の状況について)多くの高齢者が生活している施設であり、管理項目も多数ある中、適切に設備を管理しており評価している。

(収支の状況について)職員間での財務状況を把握し、コスト意識の向上に努めている。空き情報を他の居宅介護支援事業所等に提供するなど利用者数の維持・増加に努めている。

今後も入所者及びその家族と職員との継続的な信頼関係に基づく施設運営を期待している。